

顧客名 (弓場秀昭)

会議名 (会話 (梶間・植田))

【会議開催日 平成25年 1月16日】

【原稿ページ数 50頁 】

文字遣いにつきましては、新訂標準用字用例辞典に基づいております

(株)サン・ライティング

650-0015 神戸市中央区多聞通 3-3-16

TEL 078-367-2236 FAX 078-367-2237

メールアドレス info@san-w.co.jp

業務担当者

納入日 令和2年 9月 2日

会議名：会話

録音日：平成25年1月16日（水）

場 所：

発言者は下記のように立てています。

植田：植田

梶間：梶間

弓場：弓場秀昭

【備考】

01:18:57～03:13:32まで入力しています。

弓場 ほんまに言うて、このことは何よ。買い物を依頼のため、ヘルパー個人の携帯電話番号を教える件で。あなたこれわかる？これなると、どうなるんよ。

植田 11月27日に。

弓場 違う違う、ここだよ。ここの文だけ見て。

植田 ここの文だけ。

弓場 うん。この文。

植田 教える件。

弓場 うん。全然違うやん。買い物依頼の。

植田 ための携帯電話番号を教える件についての。

弓場 そうそう。

植田 はい。

弓場 あなたは4日に行ったんやろう、私と。

植田 そうです。

弓場 そしたら、私とこの言いたいこと聞いてるんやろう。田脇さんも聞いてるやろう。

植田 聞いてます。

弓場 きょうも言うてたやろう。あのときの話、全然違いましたねって。彼も言ってたやろう。こんな。

植田 そうです。4日の時点では、携帯電話番号という話は出なかったんです。ただ、最初、みらいさんが。

弓場 4日に。

植田 4日の日にお答えに来ないといけないのは、携帯電話番号を教える件についてお答えに来なあかんというふうに私は聞いてたんです。

弓場 違うよ。4日の日、私が言うたん何ちゅうてた。

植田 弓場さんは、そのときは、もう携帯電話の番号を聞いたりすることができひんのはわかっていると。ただ、必要なときに、そのヘルパーさんと直接やりとりする方法はどうしたらいいんだってという質問だったんですね。

弓場 はい。

植田 4日の日、弓場さんからはね。

弓場 はい。

植田 ただ、それ以前の弓場さんからみらいさんに出してた宿題としては、携帯。

弓場 え？みらいに。

植田 みらいに返事をくれと言っていた内容については、携帯電話番号の。

弓場 違う、違う、違う。オカガさんが言ってるのはって言いたいんやろう。

植田 そうですね。その27日にお伺いしたのはオカガさんと和田さんがね。

弓場 何や、何や、11月の何て。

植田 11月27日に弓場さんところに。

弓場 ちょっとごめんな。利用者の方針としては11月27日。

植田 ええと、それは私が書いてないから。

弓場 あのね。

梶間 11月27が、もう言いに行ったと言ってますわ。弓場さんそこ、訪問先。

弓場 あのね、だからね、梶間さん。

梶間 はい。

弓場 あなた本当にいい仕事をしようと思ったら、あらゆるものを、まず事実を確かめること。そして、人間って、いや顔を見てええ、別に、人間ってね、人間って、本当に100%、もう一切やましいない、一点の曇りのない心でしゃべる人と、あなたはどうか知らんけども、世の中にはいろんな人がいてる。

その人によっては、どうしてもちょっとやめたいときとか、あなたもそうやん、誰かと人が何かあったときに、上手にお断りするときは、ちょっと完全なうそ方便じゃなくても、上手に相手のことを思いながら、あえて言葉をちょっと変えるときもあれば、わかる。

梶間 ああ、あります。

弓場 ある。それとか、逆に今回の場合は、みらいは、最初から言います。最初から彼らは意図的に、恣意的に、その後の本当の彼らの腹の中は大体見えてるんや、わかってるんけども、それはまだ言えんけども、裁判でやっただろうかな思っとるやけどね。

あのね、彼らはね、今回は、実はね、11月のね、これ27日来たんやな。

梶間 はい。

植田 そうですね。

弓場 27日というのは、ごめんな、頭悪いからね。バッファーが少ないから、1回ここまで出さな消えるんや。ごめんな。

27やろ、27っちゅうのは何になる。

植田 11月27は火曜日だったと思うんですけど。

弓場 そうやな。

植田 和田さんとオカガさんが弓場さんのおうちに来られて、携帯電話のことでお話をされたように。

弓場 はい。わかった。月曜日ね。

植田 月曜日ですかね。ごめんなさい。

弓場 違う。26は月曜、火曜、7か。

月曜にね、待ってよ。その前の話してる。27のもう1個前してる。聞いてないやろ。

植田 ごめんなさい。うちに電話が最初にかかってきたのは、11月26に課長のほうに弓場さんからお電話いただいたっていうところからしか私もわからないんで。

弓場 ほいで、あんたらね、汚いんはね、南は1個も自分が悪いと1個も書かんとね、私のことばかり書いてるんや。

植田 ごめんなさい。私がつくった……。

弓場 これあなた、何の話か知ってる。南から聞いている。

植田 具体的には、このときは聞いてないです。

弓場 聞いてないやろ。……ね。

植田 同じような1行になってしまったんですけど、それは。

弓場 ほいでね、あなたも知ってるやん。ああいうね、マスコミのその人を先にやっつけよう思うたら、言葉を放送するときによく書いてるやん。何々と思いますけど、でも私はこう思いますっていう人と、そうしたときね、最後まで書けばいいけど、例えば、私はAと思いますけども、実はBだと思いますとしますよね。ほんなら、本当はどっちやの。

植田 それでは私もわからないし。

梶間 わからないですね。

弓場 うん。

梶間 Aと思いますけど、Bと思いますっていうのはわからない。

弓場 ほんなら、自分はB言うてるんや。「Aと思いますけど、私は」言うてるやん。

植田 最終的には後がBということ。

弓場 Bなるやろ。

植田 今、わかりました。

弓場 わからへんかった。

植田 わからなかったですね。

弓場 ちょっと待って、私、頭悪いんか。ええ？そんなことないやろう。

「私はAと思いますけども、でも私はBと思います」言うたら、どっちなんのよ。

梶間 後のほうですね。

弓場 後なるやろう。ちょっと待って、あんた、……こうか。

植田 済みません。

弓場 ちょっと待ってよ。

植田 否定してるから後っていうことですよ。

弓場 当たり前やん、そんなの。

植田 わかりました。

弓場 あんた、英語で言うたら、……ねえ、……言うたら、asとか、asは「も」やな。…

…言うたら、私、英語ちょっと最近出てきたけども。……って何よ。

植田 これですよ。わかるんですけど。ちょっと弱いんです、英語。英語弱いんです。

弓場 ええ。I see って言ったら……。ええ。

あんたさっきか、そういうのはね、もうええや、ごめんなさいね。

植田 済みません。

弓場 I see、これもあんたもっと英語ができないと。

そのときにね、26日の日にね、あいつ何も書いてないんや。ほんで、あんたも抜けてるんや。

植田 ごめんなさいね、具体的にちょっと。

弓場 ここに何があったかと言うとね、11月21日の日に、いいですか、ごめん、水曜になる。21日にね、私ね、ミカンがなかったので、ミカン買ってきてって、私、電話したんや。

梶間 はい。

弓場 事務所に。

梶間 はい。

弓場 ほんならね、あなたも聞いてた。

植田 それは聞いてます。カサさんが対応したんですよ。

弓場 そのときに、あなたも社長も認めてたやん。ちょっとカサは事務的にしゃべるので、

みんながちょっと、そういう言い方がそんなにやわらかい人でなくて、事務的によくしゃべるのは、ほかの人もそういう人は多いですねって言うたことは覚えてない。

植田 そのような誤解を招く。

弓場 そうや、誤解を招く。あなた、言うたやろう。

植田 ということがあるかもしれないですということは。

弓場 案の定そうなんよ。私らみたいな障害者にとっては、本当に、この人も言うたんやけどね、阪南市の新田さんという女の人いるの。

梶間 新田さんって、あの新田は職員ですね。職員でおりますね。

弓場 いてるよね、今。

梶間 市民福祉課です、今。

弓場 うん。

梶間 市民福祉にいます。

弓場 そうやったかな。僕、いつも阪南市で登録するときね、この人の声が一番ちゃんとやさしいんよ。

梶間 ああ。

弓場 心配せんでいいんや、この人は。だから、この人に時々やったら電話するんや。わかる。

植田 そうですか。わかります。

弓場 それでいいか。新田さんいうたかな。

植田 新田さんですね。

弓場 あの人、いい言葉やろう。

梶間 はい。

植田 はい。

弓場 同じ女性でも。

梶間 言葉、非常に優しいです。非常にきれいです。

植田 優しいです。

弓場 そうやろ。木村と全然違う。木村って知ってる。

梶間 あの、はい。

弓場 あんたとは電話、直接したことは、私は記憶ないけど、知らんけどね。木村と新田やったら、僕らみたいな障害者がどっち電話したほうがいいと思う。

梶間 まあ新田のほうですね。

弓場 そうやろう、穏やかになれるやろう。

梶間 はい。

弓場 だから、電話するときやったら心配ないやろう。

梶間 はい。

弓場 私は特に障害やから、わかる。私、昔やったらね、ぱんと投げて、愛想の悪い、この程度かなんて思ったら、もうああ、そうですか、失礼しました、これで終わりや。わかる。

でも、できないから。そのときにね、彼に電話したときに、カサさんね、出たから、最初、ミカンやったときね、全然ね、もう愛想悪かったんや。くそ、もうこんなとこいたら、これからミカン買うんでも、こんな嫌な気持ちなるんやったら、もうええわ思うたんや。そやけど、もう言ったから。

植田 はい。

弓場 後で、あなた、お名前何ていいますよかって聞くことあるけども、それはそれで終わったんよ。その後、次のときに、それとまた別にですね、小林さんにね、木曜日の小林さんにね、一番のおまるの件があったから。

植田 ああ、はい。

弓場 小林さんに電話してもうたから、ほんなら電話、かかってけえへんかったんや。夕方になって、やっとならね、木曜日のね。そのときに「みらいですけど、今、ニシは仕事やから」。こう言ったんや「かわりに私がお伺いします」って、それは言うた。

「それで私、小林さんにも言ったけども、ちょっと今回は、どうしてもニシさんと話したいので、ニシさんに電話してって小林さんに言ったんですけども、また二度、三度とか言えないし、それで、ちょっと今回はとりあえずニシさんに電話してほしいんや」って言うたんや。ほんなら、「いえ、一応、私がお伺い……」言うたんや。そして、私がちょっと待って、その声、前1回聞いたことがありますねって言うたら、「はい、カサです」って言うたんや。

植田 カサさんが。

弓場 私はその前にね、ミカンの買うことをね、最初からニシさんから聞いてたんや。そのときの、ミカンの電話したとき、「愛想悪かったけど、あの人誰」って言ったら、「ああ、あれカサさんですわ」って言ったから。ああ、やっぱあの人かって。

そんなあったんや。だからそんなことあったから、「あれ、あなた、前入ってくれた人やね」って言ったら、「はい、そうです」。木曜で、そのときミカンのこと覚えてたから、もうまた同じ思いになりたくないから、悪いけども、もうあなたという人はもうはじいたんや。「あなたともう話したくない」って言うたんや。

その前に「私がかかります」言うたんや。ほんなら何で、「後でもいいからかえてください」って言うたんや。ほんなら2回ぐらいちょっとやりとりしたんかな、3回ぐらいか。もう私と話したって、それで言うたんや。あの人では結構です。あなたとは話を言うんじゃないくて、ニシさんとやりたいっちゃうこと、それを二、三回言うたんよ。最後にそんな話になって、それであなたと話したくないって言うたんよ。

ほんなら、今度は「ああ、そうですか」ってがちゃんと切ったんよ。本当、覚えてんのか。そんなことがあったから。そして、私は覚えてるの。次に話したくないのって言うてて、ほいで一言、私も言おうと、また、あのときは……。とりあえずまた、今回のことちょっと言おうと思ったかな。ほんなら、そのときがちゃんと切られてもたんや。何かここに残ってるのよ、今でも。そんなことがあったんよ。

そんなことがあったんで、そうしてで、だから、その後、この日かどうか知らんけど、26か、この辺ぐらいに、ちょっと待ってよ。これ、26に和田さんと杓さん。ああそうか。

その前、こっちのほうやな。こっちのほうにカサさんで数週間前、ミカン、あなたとお話ししたくないと言ったら途中で切られたんやな。その後、和田さんと杓さんが、ああ、わかった。やっぱりこうや。26のもう1個前な、月曜日。来たんは月曜日やった、火曜日かな。

植田 火曜日だと思います。

弓場 火曜日やな、来てるんやな。

このときに何で来てもうたかつちゅのは、その電話、ニシさんにかわってもらえなかったから。だからね、ここで切るけどね、梶間さんはですね、直接的には買い物依頼のため、ヘルパー個人の携帯番号を教える件じゃないのよ。携帯電話番号を教える件じゃないのよ、これは。わかる。

植田 直接やりとりするということですか。

弓場 これは携帯番号なんかあなたもわかる。私もね、あなたわかる。自分でいろんなメンバーやってきてて、女の子の携帯番号なんて、そんなの私だってわかってるんだ。

ばかじゃないんよ。

ヘルパーさんでも、みんなの、そんなこと、ここもみらいさんに1回も聞いたことない。こっちも。だから、今回の目的はあなた知ってるやろう。おまる、恥ずかしいことやから、特にその、カキっちゅう女の子はちょっとつつけんどうっちゅうか、優しさが無い人やから、そんな人にこんなおまるの件なんか余計に話できん。わかる。

あなたもそうやろう。自分の好きな人やったらいいけどもね。嫌な人にな、嫌やんか。だから梶間さん、ここ直して。個人の携帯電話番号を教える件じゃないの。

植田 ここに書かせてもらって、どうしましょう。コピーとかとれないですよ。二重に書きましょうか。これ、弓場さんに残すメモですもんね。

弓場 どれが。

植田 この紙はね。

弓場 最後ね。

植田 最後ね。

弓場 だから。

植田 待ってくださいね。個人の携帯。

弓場 これコピーしようか、ほんならこれを。

植田 コピーできますか。じゃあ私、ここに書くので、帰りに書いたものをコピーさせてもらってよろしいですか。

弓場 そうやな。

植田 はい。

弓場 梶間さん、ごめんやで。あなたに学校と言うけど、何でかって言うたらね、これが理解できなかったら仕方ないからな。でも、これはわかる、携帯電話番号を教える件じゃないでしょう。今の話したら。

梶間 直接連絡をとる方法とか、そういうこととかそういうことですよ。ヘルパーさんと。

弓場 そうよ。だから、あなたにね、頭に来てんのはね、あなたこの、ここ知ってるか。こいつ、あんたのね、私からすりゃ、この人間、何じゃと思う。ここのね、今後についてあるやろう。今後についてのね、今後の。

梶間 今後についてですね。

弓場 はい。そこの、一方、事業者にとったらあるんや。8行ぐらいか。「一方、事業者

にとっては従事するヘルパーの立場を守るために、携帯番号従事者の個人情報の提供を」と書いてある。こんなものわしには、こんなこと何の意味もない。関係ないことや。

植田 ヘルパーと直接やりとりする方法について。

梶間 ですね。

植田 ということによろしいですか。

弓場 いや、本当はね、一番ね、例えばプライバシーのこととか、いつもお風呂に入って私の裸を知ってる人やったら、おまるも話しても、まあ恥ずかしくないから。その人から直接、何度言います、携帯番号なんか、私、興味ない。それも、あの子から公衆電話のお金払うから、公衆電話でもええし、それか時間遅かったら次の日でも構へんの。わかる。

要するに事務所から電話をくれてもええの。ただ、早目に電話をくれてたほうが、買い物に行くときはお金も渡さないとあかんから。本当にお金持ってないと買えないから。だから先に言っといたら、お金もいけるかな思うたから。だからそういう形で、ニオさんに言うた。もう1つは、ニオさんは、私のこのおまるの種類を知ってるから。そのときに前の、何、ここに、ナフコってあるんや。

梶間 ナフコあるんですね。

植田 あそこに電話したらね、このおまる売ってなかったんや。それで、ニオさんに早目に、ここやったら往復でもええけどね、あそこやったらちょっと遠いから、ちょっとでも時間かかるから、もう先に電話してあげたほうがいいと思って、それで何よ。

植田 直接言いたかった。

弓場 言っときたかった、そうそう。そういうことなのよ。

梶間 はい。

植田 だから内容がね、僕、どこがもう、私をおとしめるためにだけ、こんなここに。まあいいや。

その次ね、11月27日、事業者の方針として、それはできないことを説明したが。

梶間 もとに戻ってですね。

植田 契約がある。この中でね、11月27日、事業者の方針として、それはできないことを説明した。このときは、あの人たちは私らには直接来ない。露骨には言えないか知らんけど、私たちはあの人に「ああ、そうですか。弓場さん、そういう話やったんです

か。ああ、そんなおまるを買いに行くんやっただですか。ああ、そんなことやったんですか。ああ、わかりました。じゃあまあ、仕方ない」みたいなこと言うたんよ。

特に和田さんは、あの人は人間いい人やから、別にもういいみたいな感じじゃないけど、一応事業所はルールがあるから、私たち2人では決められないので、帰りに、あの子に「己の欲せざることを人には施すことなかれ」ってあるやろう。そんなコピーをあなたもあげるわ。

梶間 はい。

植田 それであげて、ちょっとぐらい、そのうち、施すことなかれ、怒かっていうの。怒かっていうのは、怒っていうのはね、人間の生きていく一番大事なことはね、許してあげるといこと。許すといこと。怒といのは。そういうことをね、怒っていうね。それも見せてあげたんや。

弓場さんそこ行ったら勉強になりますわって、みんなにこにこして、楽しくして帰ったんよ。また、悪いけども、木々がさんも、たまには私の顔を見に来てよって。あなたも前も1回、ケアマネやけどもヘルパーもやってます言うから、じゃあまた1回、私そこ入ってよって言うたんよ。私も入りたいですって言うたんよ、そんな感じやったんよ。

そんなことがあってね、「27日に事業者の方針としてそれはできないことを説明したが、障害者に対する誠意がない対応なら、法的な手段を考えると云われたこと自体」って書いてるんや。この事例であんた、文章の使い方はね、あなたも知ってるな、恣意的とか恣意的。

植田 恣意的。

弓場 恣意的ってわかる。

梶間 はい。

弓場 そうやな。こういう文章づくりを恣意的って言うんや。わかってる。

梶間 はい。

弓場 ここのところはね、法的な手段を考えるって、ほんまに最初からけんかや、これ。あなたの一番怖いのが、全部が全てで、物すごく言葉が全て、こういう刃物みたい。だからあなたサイコ・ホラーのああいう昔、金曜日の、チェーンソーを持ってたこんな。

植田 13日の金曜日のあれ。

弓場 そうそう。あんたそっちのしようとしたがよ。もっと売れるかわからんよ。

でも、私らにとったらきつ過ぎる。

梶間 はい。

弓場 わかる。何度も言いたいのは、今回は元気な人やったら、少しはやわらかく、少々こたえなくても私たちにとっては本当に怖い。ここの刃物がぎらぎらしてる。わかってる。

梶間 はい。

弓場 障害者に対する誠意がない対応なら法的な手段を、こんなこと、これは法的な手段を考えるとかじゃなくてね、あんたね、ほんまに。だから人をね、あなたも言ったやん、光の当て方を、人を暖かいとか、その人のものの見方を抱えてあげる人の言葉と、最初からこの人を、ひどいことをしたから仕返しをしてやれみたいな光の当て方であるのと全然違うのよ。何でも。

あなたもそうやんか、みんな、植田さんとある日、もし何かで本当の意味でけんかしたらね、だんだん光の当て方、この植田のやろうってだんだんなってくる。そしたらこっちはこっちで、あのばばあがってみんなとなる。そうじゃなくて、あなたが暖かい気持ちで、植田さんも今回失敗したな。でも、あなたもしんどかったんかなって思うのと、もう全然違うもん、本当に。

これもね、だからこんなん書いてんで、最初に忘れんから「中立と言いながら、阪南市は余りにも一方的にとれるか」……言うた。

梶間 そうですね、確かに。

弓場 うん？

梶間 そうですね。中立と言われると。

弓場 そんなもん、これがあんた中立と、あんたあほ違う、これ。

梶間 そうですね。

弓場 これが中立やったら、あんたの頭、私の頭より回路が悪い。

梶間 これは弁解の余地がないと思います。おっしゃるとおりです、これは。

弓場 そうやろう。

梶間 最大の。

弓場 これは契約破棄理由。これは書いてある。

梶間 はい、おっしゃるとおりです。もう弁解の余地はありません。

弓場 あんた、これだけしんどくない。こんな真夜中、知ってるか。これの4倍ぐらいの全部こんな、1個1個つくって、こんないっぱいこんなやってる。全部自分の名誉回復のとき、あんたらがもう、もういいわ、おまえらや、おまえらこんなひどかったら、私は自分のためやっちゅう、これだけ、年末、これをあなたにもろうてから全部これや。

これも知ってるか。昔のね、私、頭やりたなかった。こんな文章すぐ打てるんや。ほんで、頭が出てくるんや。でも、こんなときね、知ってるか、この文章1個つくるのにね。私の脳はね、全部ね、主語、述語とか、言葉が1個何か変な言葉が入ってしまふんよ。

要するに私は言語中枢がやられたから。昔のすうっと普通にしゃべれることは全部先に、主語が出てこない。先に動詞になってしまう。食べた、頭に來た、そして後に、梶間がとか、植田がとかになる。あと、またそれを直さんとあかん。それで1個1個、またこっちになる。こっちに全部直しながら。これいつも毎日、朝方いつも6時までやってた。ずっと。毎日6時までね、12時間。

ほとんどリハビリもできず、もう一生懸命。手なんて痛くて、あんたでもそうやろう。これだけ打つとき大分時間かかるやろう。

梶間 かかりますね。

弓場 ええ。

梶間 丸1日以上ですね。

弓場 そうやろう。私は10倍かかるんやで、左手で。それも。

植田 片手ですもんね。

弓場 言葉が出ないんよ。こんなん言うんや、この南みたいないいかげんな男、こんなこと、言葉があるはずや。そうや、古ダヌキやとかね。こいつみたいなことを何っちゅうんかなったら、ああ、ペテン師や。こんなみたいな、男みたいな何っちゅうかな。いっぱい、それを出てけえへんので。本当はこんな男でいっぱいあるんやで。やっと「手練手管」とか。もう「もてあそぶ」でも最初出てけえへん。

こいつみたいなこんなことをする連中は、これ何やったかな。これも出ない、こんなんや。だから、自分で表現したくても、それすら出てこない。本当に、足がこんなに痛くなるの。

だからね、まあいいや、もう遅うなるから。そのときにね、ここに書いてるけどね、

1 番、2 番、3 番、4 番、どこやった。裁判に訴えるとあったな。どこやった、この時点。2 番、障害者に対して誠意がないなら、書いてあるやろう。梶間。

梶間 そうです。

弓場 神戸の酒鬼薔薇聖斗書いてる、それぐらいきつかった。

これはどういうことかと言ったらね、障害者に対して誠意がない対応なら、法的な手段を考えると言われたこと自体を飛躍させて、完全に悪意に満ちたすりかえと趣旨をねじ曲げてる。ねじ曲げるという言葉が出てけえへん、最初。こんなんが、わし、こんなんやで。曲解するとか、こんなことも出てこない。

これは実は、和田さん、木村さんは、弓場さんの気持ちはわかりましたが、私たちではいいか、よくないかとは言いません。じゃあ、きょう、私の気持ちをわかってくれたはずです。社長に伝えてください。もし、どうしても納得できないと言われるのであれば社長さんに来てもらってください。ここに中国の「己の欲せざることを、人に施すことなかれ」というコピーをあげたら喜んでくれた。

ただし、阪南市が捏造すりかえしている。裁判に訴えるぞということを解約理由に挙げている。継続しがたい不信行為といいがかり、あげつらっているが、まるっきりのでたらめである。

これは何でかと言ったら、この人が言うたんよ。梶間さんはですね、本件について、これももうあんまり嫌いなんや、この言葉。上記の1・3にあたり、既に本年2月にヘルパーに対する人権無視、人格否定、女性蔑視の。でも、本当は梶間さん、あんたこれをこのまま、あなたがうちは間違ってますんやうんやったら、僕は本当にきょう、裁判するで、あなたに。宣言するで。

梶間 はい。

弓場 それぐらい許せない言葉やで。

梶間 はい。

弓場 暴言をきっかけにより、他のヘルパーにも同様に御本人の事業所に対する信頼関係の不安を抱かせ、事業者の特定サービス提供者を拒否し、今回の一件で、法的手段の言葉を出したことからってなってるんよ。だから、一番の直接的な言葉、法的手段の言葉を出したことからって書いてるんよ。

梶間 はい。

弓場 いろんなことあるけども、ここでこれがきっかけになりましたって書いてるんよ。

植田 うん。

弓場 でもね、これはあなた今でも思うてんの。あなた、この後、何を調べた。みらいから。

梶間 聞き取りだけですな。

弓場 木々がと。

梶間 11月30は木々さんと社長さん、お見えになりました。

弓場 これ先言うとか。これはどういうことかと言うたら、ここに書いてんのよ。

こう書いてんのやで。私が言うた。継続しがたい不信行為と言いがかり、あげつらっているが、まるっきりのでたらめです。そのとき言ったのは、木々さんと和田さんに言ったのは、その携帯電話じゃなくて、その担当者からの電話すら、年に1回か2回やから、そんなときにね、それぐらい認めてくれてもいいんですか。ましては、私、社長、障害者ですよ。

ただ、幾ら組織の論理だと言っても、何でもかと言ったら、木々さんと和田さんが、「いや、会社のルールですから、私らここでは返答はできません」と言うたから、もし「じゃあわかりました」とさっき言うたやろう。社長にまた聞いてくださいって。

でも、一般的に言うとか、一般社会では公序良俗に反することや一般社会で通じないことを企業が好き勝手に内容つくって、民間の企業は何をつくっても勝手であると言ってもですな、世間の一般常識から逸脱するものであれば、特に1人の立場の弱い人や、ましてや障害者であるならば聞いてくれる場所や裁判所でもあると一般論で言っただけ。わかる。

すぐに裁判するなんて何も1つもない、そんなもん。だから、自分とこのルールやからうちは聞きませんというやり方はね。そうじゃなくて、あなたたちもう1回ね、1回みんなで話し合って、今までのルールはこうやけども、やっぱり弓場さんがおまるとか、そういうことで言いにくいことやとか、言いにくい人やとか、そういう人にどうしても言えと言われても、ちょっとぐらい、少し臨機応変に年に1回か2年に1回ぐらいやったら聞いてあげたらどうですか。

要するにそのルールがあるからって、それに縛られるんじゃないで、そういうふうなことをしてあげるのが世の中でしょう。そういうことを私は言うたわけ。わかりますか。

梶間 はい。

弓場 言葉わかりますか。

梶間 わかります。そこからあれですよ。私たちがとったのが、やっぱり申しわけありませんね。非常に済みません。そこからですね。

弓場 だから、一般論でいったのでは、和田さんや木さんもわかってるはずで、ましてやこの担当者からの電話、本当に担当者からの電話してほしいだけの件で、すぐにみらいを訴えるぞという文章は明らかに、弓場をおとしめるための阪南市のひきょうな捏造であると私、書いてる。私の気持ちはそう。

梶間 はい。

弓場 あなたもわかるやろう。何で私がみんな、女の子がやってくれてるのに、そんなことでしたくない。でも、私たちは相手が一方的な論理だけで、私がお願いしても、ちょっとぐらい、あなたもそういうのに聞く耳を持って。そうですか、弓場さんやっぱりそうですね、私もルール、こんなんやっただけども、障害者のお客さんの中にはひとり者で、もし家族がいたらそんな問題起きへんのよ。わかる。嫁さんか自分の兄弟がいたら、その人におまる買いに行ってもらったら終わるの。

でも、私らみたいにならんで、誰かに助けてもらわんとあかん。だから、それぐらいの本来のお客さんのために何をしてあげるかとそういう観点に立てばですね、別に年に1回ぐらい聞いてあげても、電話してあげて、買い物に行つてあげても、それが仕事じゃないですか、私はそういう意味で言うだけ。

だから、今すぐこんな、あなたもわかるやん。裁判するときお金結構かかるんよ、あんたも知ってるやろ。

植田 はい。

弓場 あなたも知ってたやんか、横であなた聞いてたやんか。だから、僕ね、あなたに腹立つのはね、せつかく4日の日に連れてきていてね、知ってる？弓場さん、裁判、何かヘルパーさんたちが怖がってますよとか、いきなり話を持ってきた。何でもか言つたら、あなたは最初からそういう話してるから、ねえ。相手はもうちゃんと、伏線をちゃんとつくってたわけ、彼らは。そのときにね。

植田 4日のときも何か言うてましたね、裁判のことはね。

弓場 出たやろう。

植田 はい。

弓場 だから、田脇さんも何でこんな話が、いきなり電話の件とこんな話が出てくるんか

っちゅうたんや。

植田 それは、この11月27の、話を聞いてくれる場所として裁判所もあるっていうことで、弓場さんとしてはお話しされたっていうことですね。

弓場 そうそう。だから私の言ってるのは、そら言葉は裁判とか、一般のこんなあるやんか人権団体とか。いろんなそれとか、大阪府でも。だから私は、最初は、前もそうやけど、みらいのね、前のノンアルコールのときでもやったやろう。

植田 はい。

弓場 あなた知ってる？梶間さん。みらいのノンアルコールの話は知ってる？それは知らん。

梶間 それは耳にはしてます、やりとりは聞いてましたけども。結局、ノンアルコール。

弓場 あれはね、僕は南を。

植田 この部分、ちょっとまとめたいので見せていただいてもいいですか。この部分。

弓場 後であげるよ、全部。もしあれやったら。

植田 そうなんですか。はい、わかりました。ちょっと私、文章にまとめられなくて。

弓場 南、あいつにね、ノンアルコールのときは、あいつは、わかりました。弓場さん、じゃあ私が一筆書きましょう。買えるようにしますって言った。みらいさんに発行します言うたことあったんよ、あんた覚えてるか。

植田 ごめんなさい。今、ちょっとこっち確認してたんで聞いてないんですけど。ノンアルコールの買い物を頼みたいという話は聞いてます。

弓場 そうやろう。あのときもね、私もね、顔でね、私も不器用か知らんけど、やっぱりある面すごく自分の納得しないとある程度、社長に言うぐらいの人間やから、私はね、でも、今回のこともあの人、南さんは発行してくれた。それは、あのときは、私は一緒になって考えてくれるのはありがたかった。でもそのときにね、私、言うたの覚えてる。南さん、お気持ちはありがたいんですけども、今回は自分の手で頑張りますと言ったんや。私だけノンアルコールビールでも、普通のビールの1本。それも私だけ抜け駆けで書いてもうて、ほかの人も飲みたい人いっぱいいるはずです。

だから、私は本当に今のルールがあかんのやったら、そのときは私もやめます。私だけ抜け駆けしたくないです。そのかわり、私も1回大阪府とかいろんなところでいろんな話します。だから、知ってるやろう。私は大阪府、大阪市、泉佐野、和歌山市、厚生省。

梶間 厚生省、はい。

弓場 電話したんよ。ほんなら厚生省は、別に一切規制をかけてません。飲んでもうても結構ですとはっきり言ったんや。でも、この介護保険は国よりも自治体が一番お金払ってるから、だからそこが一応、私たちが一応言うのは言ってあげるけども、どうしても自治体がわかってくれないときは、一応、私から言いますって。

梶間 はい。

弓場 じゃあもう結構です、私が自分の力でやります。その後、大阪府に電話したんよ。大阪府の岡山さんっちゅうの知ってるやろ、今回の件でも。

植田 はい。

梶間 はい。

弓場 あの人に言ったら、最初は、いや、それは1本ぐらいいいです。別に買い物に行ったときに、それだけ、これを買いたい物に行った後、また弓場さんが「ビール買ってこい」と言うたら、それはだめです。そやけど、ここで、カキと一緒にスーパーで買うときはそれは結構です。そして、何年かにちょっと。

植田 Q&Aですかね。

弓場 緩和してます、買いやすいようにしてます。そんなのあった。それで、じゃあいいですね。そんなん言ってもうたら結構です。

そのときに泉南市の野口さん。あの人とそのときにお話ししやすうなったんで、そのときも大分けんけんがくがくやった。でもそのときも、そうですね、1回あの課長。

梶間 ヤブ忒。泉南市はヤブ忒課長ですね。

弓場 何とかヤブ忒さんね。

梶間 ヤブ忒課長。

弓場 ヤブ忒さん。

梶間 はい。

弓場 その人にも話したらね。ああ、そうですね。それぐらいいいですね。うちもじゃあ、1回、大阪もそんなん言ってるし。というよりも私もビールぐらい買い回りで買えるんやったら、もううちも1回調べてみます。調べてみて、どれだけみんなそんなこと禁止してるか、本当は飲みたい人がどれぐらいいてるか調べてみますって。

私たちもちゃんと弓場さんの今回の意見を聞いて、いい意味で前向きで考えますって言ってくれた。それで何とかなったんよ。そのときも、大阪市にも、大阪市の課長

とも電話したんよ。その市の課長はね、男の人、名前は何て言うかな、その人は私の同じ市大の後輩やったんや。

ああ、先輩ですかとか。こんなん言うたんや、弓場さん、やっぱり、こういう大阪市内はね、お客さんによってはちょっとやんちゃなお客さんも中にはあるんで、あんまり前面に出すとちょっと難しいところもありまして、先輩もわかってくれると思いますけども、もう私には聞かないでくださいって言うんや。

聞かないでいいっていうことは、ほんなら買ってもいいんですねと言ったら、まあ買ってもいいとは言わないけども、別に買えなくてもいいって。だから、聞かないでくださいって言うてんねん。ほんならわかりました。そなんんあったんです。そんなことがあって、何とかビールについては、そんな形で終わってた。

だからね、そのときの面識で、南さんに全部これから私は電話したんよ。だから、今回大失敗した。あんなとこに電話したんが。もう自分で最初からやってたんや。

ほいでね、また、それと。お茶ごめんな。植田さん、ここちょっとあけてね。そこあけたらお茶あるんや。

植田 もうまた。でも、その。ありますけど。

弓場 取って、こんなやつ。

障害者に対して誠意がないぞとか、対応なら法的手段をなんて。一般論的に言うことと、あなたわかるやろう。

植田 はい。

弓場 こんな文章だったら、最初からみらいと闘うぞってやってないやんか。確かに私の言ったんは、門前払いで言うことを聞かないと、話す余地がないと。

植田 はい。

弓場 まして障害者のお客さんに対して、いや、もううちはルールやから、そなんんうちではできません。嫌やったらやめたらいいですよ。そなんん言うんやったら、その場合は、私もいろんな聞いてもらえるところあるよ。裁判だってあるし、いろんな団体だってあるし、もしあれやったら一般常識でいろんな人に聞きますよ。そういう意味で言ったの。

植田 門前払いをするんであれば。

弓場 そうそう。

梶間 あればっていうことだったんですね。

弓場 そうそう。

私にすれば、私みたいに1人の人間も家族いてないんやから、とか恥ずかしいこと。女だけじゃなくて、男でも恥ずかしいときは恥ずかしいですよ。あるんですよ。私はまだそこまで書いてません。私だって、こんな女の子に裸を見せることだって、私だってまだ少しある。

でも、おまるのことでね、私もまだね、それなりに私もこないして生きてきた人間やからね。そんな人間がおまるのことで、ちょっとつけんどんの女の子に、いいですかなんて、あなたわかるやろう。

梶間 はい。

弓場 この時点で、御本人と事業者との信頼関係が破綻しました。

ちょっと話は変わるけどね。梶間さんね、この文章でいくと、西ノ坊、オカガ、サービスに行ったんでしょう。

梶間 30日にオカガさんが。

弓場 だったでしょう。

梶間 はい。

弓場 このときの話をほんまもう1回、ゆっくり言ってくれる。どういう話やったん。

梶間 社長がお見えになるということもあって、あのね。

弓場 正直に言うてよ。

梶間 ありまして。

弓場 つくらんといてよ。

梶間 つくってないです。お越しになられたんですけども。

弓場 何て。

梶間 そうやってお二人がお越しになられて。

弓場 2人が何て。

梶間 オカガさんと社長さんと。

弓場 それ、いつごろ来たん。

梶間 11月30日の午後2時ですね。2時ごろやったね。

弓場 書いといて。

植田 ……だったですか。

梶間 私、別件予定が入ってるのを変更させてもらったんで、記憶があるんです。2時ご

ろというのは。

弓場 2時ごろぐらい。

梶間 実は別の来客を、来てもらうのをおくらせたぐらいなんです。

弓場 うん。

梶間 社長と木村さんが2人が見えました。

弓場 はい。

梶間 ええと、あの。

弓場 自分らもちょっと1杯ぐらいやってよ、それだけでも。そうじゃないと、こんなに
来てもうて……。それぐらい、これぐらいやったらいける。南さんは最初、もっと飲
んでた。あんたたち……。はいはい。とっとといて。

植田 どうしましょう。

梶間 いやもう、あの。

弓場 違うよ、とってよ。そうじゃないと、私、そういうこと、また監禁したって言われ
るやん。違うやん。それはやってよ。はい、ちょっと貸して。ほんなら僕が取りに行
く。

梶間 じゃなくてね、私ら市民さんからいただかないことになってるんですよ。

弓場 ほんならもう……。

梶間 それはもらうと、私はまた部長から……。

弓場 はい。わかりました。はいじゃあ、そうします。

でも、いける。飲まんでも喉いける、大丈夫。

植田 大丈夫です。

梶間 はい。

来ましたね。はっきり言うて、社長さん、これはどういうことなんやろうって言っ
たのはあの、社長さん。

弓場 何か、あなた逃げる。じゃあ、何か。

梶間 逃げてないですけど。

弓場 ほんならはっきり言うて。はっきり言うて。大きな声で。

梶間 はっきり言うてね、もう契約やめたいと。

弓場 言うたんやろう、そのときもう。

梶間 一番最初それだったんですよ、実は。

弓場 行った途端にね。

梶間 はい。一番最初それだった。契約やめたい言うのは民間同士なんで、本当やったら民間と利用者さんと話し合っって契約やめたいというのが。こちらに相談が来るっちゅうのは、よっぽどこじれた話かなと思ったんです。こういうこじれてるから市役所に来てるんやなど。

弓場 はいはい。

梶間 ただ、何でということを知ったら、個人の携帯電話の、今言うた文章のとおりですわ。電話の話から、電話場号を教えへんよっちゅう話なんで。

弓場 携帯番号を教えてくれんって言うてんの。

梶間 そういう話でいって、とにかくその間に、弓場さんにそれやったらどないかして、直接ヘルパーと電話する方法。

弓場 ごめんな、もうちょっとゆっくり目で。ゆっくりやったらわかんねん。

梶間 ヘルパーと携帯番号の件について、27日に行った。その話、携帯番号とかは教えられへんよと。それやったら直接、電話、連絡とれる方法、とにかく答えを持ってくるようにというふうな話を多分、27日にされたんですよね。ということを知ってるんですよ。

弓場 何、何、何が。

植田 このことですね。直接、ヘルパーさんとやりとりするにはどうしたらいいのかっていうのを、27日に弓場さんから話されたと。

梶間 というのを、それは答えを持っていく。

弓場 本人宅を和田、……サービス訪問したときに、私来てくれたときに。

梶間 そうです。

弓場 ヘルパーと直接やりとりをしたいときにどうしたらいいのか。

梶間 というのを聞かれたから、その返事を持ってく話にはなってるんだけども。

弓場 事業所が。

植田 そうです。

弓場 禁止なってるけども。

梶間 なってるけども、単刀直入に言うと契約やめたいんやという話だったですよ。

弓場 ごめんなさい。

梶間 契約をやめたいと、契約を破棄したいんやと。

弓場 さっきはヘルパーと私が直接やりとりをしたいときは、どうしたらよいのかということ
ことを最初聞きに来たんやね。

梶間 という答えを持って何うことになってるんだけども。

弓場 さっきのあれ。

梶間 そのときに、契約もうやめたいという話をしたいんやと。それは何でやと言うたら、
電話の番号、連絡をとりたいということで、電話番号を聞きたいという話にもなった
んだそうですけども、そのときにカサさんが出て、あんたには教えられへんとか、あ
んたとは話したくないとか。

弓場 うん、言うた。

梶間 言うたっちゅうのも、その前に言うて。それについて、電話、誰が出るかわからな
いし、カサさんが出たからって、カサ出ないようにしてくれとか、カサが出たら切る
とか言うても、ちょっとそれは組織として対応できないし。

弓場 いや、その話とまた話が変わったで、今。飛んだで。

梶間 そういう話も含めて言うてたんです、その話。

弓場 ちょっとごめん。ちょっと待って、今のもと言い。

植田 カサさんが出たときに電話を切るっていう話は、4日に聞いている私の話なので。代
理がごっちゃになってないですか。

梶間 申しわけないです。

弓場 ごちゃごちゃなってる。

梶間 ちょっと待って。

弓場 そうよ。

梶間 カサさんを拒否をしている。

弓場 ここ見て、これは4日の日なんよ。

植田 ただ、この30日の時点でも、弓場さんがカサさんに対して拒否的であるという話は
出てます。

梶間 そこでは出てます。

弓場 そのときにカサさんに、拒否してると。

梶間 という話は聞きました。

植田 聞いてたんですね。私、その話……。

梶間 私、聞いてます。そのときに。

弓場 拒否してるんで、もうやめたいんやと思うてますと。

梶間 はい。

弓場 はいで。

梶間 それと、その言うてた、本年2月に。

弓場 書いといてね、ちゃんと。

梶間 はい。

植田 ちょっと待ってくださいね。

弓場 今の。

植田 今のお話。

梶間 これは引きずってたことですよ。

弓場 え？

梶間 引きずってたことなんですけども。

弓場 うん。

梶間 引きずってきたことなんですけども、本年2月に、あるヘルパーさんに、それこそ。

弓場 引き継ぎしたいんですけども。

梶間 要するに、本年2月にあった件を。

弓場 本年2月に、ああ、この話。

梶間 そう。暴言言うた件を、やっぱり心に持ったままずっと来てたんですけどもって。

弓場 誰が。

梶間 社長が言うてました。社長とカガさんと、ヘルパーさんが言われて、泣いて帰ってきたって言うて。

弓場 スエラさんな。スエラさんの件で、2月のことを、みんな引きずってるところがあると。

梶間 引きずってる。あったんです、ベースに。それが引きずってきてたところに、カガ。

弓場 電話番号。

梶間 そうそう。電話の件。

弓場 カガさんも話したくないとか。

梶間 そうそう、それがあって。それを組織として、みらいとして、会社のルールでやっ
てることも御理解いただけなかったら、契約。

弓場 じゃあ、ごめん。1個あなたちょっと、あやふややったんやけど。

梶間 あやふや、はい。

弓場 もし、理解できないなら解約したいのか。それとも、この時点ではもう。

梶間 この時点では解約、腹くくる勢いの話で解約したいんやと。そんな話やったら変わるんじゃないんですかという余地はなくて。中立でやっぱり話しないと、私らについては中立で入らないとやっぱりいけないし、それで入ってほしいという依頼がそのときにもあったんで、それで。

弓場 そしたらね、ここで裁判に訴えるぞという発言があった。本人宅に入れるヘルパーがおらず、本人にサービス提供できないという申し出があり。

梶間 12月。

弓場 いや、30日のね。

梶間 そうそう。その段階で、もうやっぱりヘルパー、あのやっぱり、ヘルパーもなかなか嫌がってるしっていうことで。それで私らもその組織、要するに、みらいを会社として運営してるルールに御理解いただけなかったらっていうことで。

ヘルパーも言うてました。ヘルパーも、もうちょっと嫌がっていますっていうことは聞きました。このときは確実に。

弓場 そのときのヘルパーは全員って言うてんの。

梶間 みんな、全員っていうか。そうです、全員。

弓場 はっきりしといてよ。そこがあなた、また知らんで。

梶間 間違いなく、それは、一応、今入ってるヘルパーは全員嫌がっておりますと。その段階では。

弓場 言うてんの。

梶間 間違いありません。はい、それは。

弓場 あなたが聞いたの。

梶間 嫌がってる。嫌がってるということです、それは。

弓場 みんながそう言うてんのやな。

梶間 はい。

弓場 はいで。

梶間 その段階で。

弓場 ほんならこの時点では、あなたの感覚では、もうみらいさんは、きょう、来たんは、そのときは、あっちは携帯電話についてやな。

梶間 はい。いろいろ説明、あの人たちもいろいろ説明、携帯電話の件とか、カサさん拒

否してるとかいろいろ言われて。

弓場 その時点で、もう今回はやめようと思うてますので。というかあなたのほうは、1
個は条件がついてるからちょっとややこしいなるんやけども。私らの言うことを聞いて
くれなかったらやめようと思っってますっっちゃうのか、それとも最初から、もういや、
そんな関係なく今回いろいろみんなも嫌がってるし、加村さんも嫌がってるし、そ
ういうこといろいろあるから、一応やめようと思っってますから。だから、その話を伝
えに行きたいと思うんで。

梶間 そうです。

弓場 行きたいということと言ったんで、それじゃあ、そうですか。あなたは、ああ、そ
うですか。じゃあわかりましたって一応もう思ってたんやね。

梶間 一旦はそれで思っ、また担当とか。一旦それで思っ。

弓場 一旦、何っ。

梶間 一旦そうやって聞き取っ、もう帰ってもらったんです。それでそのときに。

弓場 ちょっと待っ。一旦何っ言っ。

植田 その話を聞いて、もう帰ってもらったと。

弓場 うん。

植田 そういう話をみらいさんから聞いて、そのままみらいさんには帰ってもらったと。

弓場 そのときは、あなたたちは何て言うたんですか、そのときは。ああ、そうですか。
仕方ないですか。

梶間 それは、ちょっと考えさせてほしいっていうことで。

弓場 後で、自分だけ守ろうとせんといてよ。

梶間 いや、それはないですよ。

弓場 あなたも正直に言うてよ。

梶間 正直に言うてますよ。

弓場 何でかと言うたらね、僕はね。

梶間 正直に言うたらそうなんですよ。だから。

弓場 そのときは。

梶間 でも、余りに性急過ぎるのがちょっと不安もあったんです。

弓場 え？

梶間 余りにも急過ぎるんで、すごく不安もあったんで、いいのかどうかというのも考え

させてほしいと。

弓場 これがそうなの。

梶間 事実です。

植田 そうなんです。だって、この日にいきなりこんな話を持ってこられて。

梶間 いきなり持ってこられて。

弓場 ほんでこのときは、ごめん。

梶間 はい。

弓場 今回みたいな解約するにしても、本来の解約するときは1カ月前やな。告知期間があつて。

梶間 はい。

弓場 このときからすぐに行きたくないって言うてるから、即座にしようと思うてたわけ。

梶間 告知期間のことは知ってはったんですけど、当然、自分のつくった契約書ですから、みらいさんのつくった契約書ですから告知期間のことは知ってはったけども、即日やめたいということ言うてはって。それはちょっと、よっぽどのことやなととったんですよ。私としては。

弓場 じゃああっちから、最初からこういう解約で、あなたが即解約をしたいということ、後の、たとえ10日でも、1週間もそんなことしようと思いますとかじゃなくて、そのまま即解約したいと。

梶間 はい。

弓場 女の子たちもちょっと嫌がってるんで、カキさんも弓場さんから拒否してるし、何か自分らの言うことを聞いてくれんかったら裁判でもするだとか、そういうことも。だから、でもこれとはまた別の問題やけどね。あなたもわかるやろ。

植田 はい。

弓場 ただ、1番は最初から、これは1つのこういう理由を挙げてるけども、どっちにしてもやめたいということが言いたい。

梶間 そうです。

弓場 そうやろ。

梶間 それは間違いないです。

弓場 そういう感じが受け取れたから。

梶間 はい。はっきりそう、まず一番にそれ言われたんで、即刻やめたいって。

弓場 そうやってね。うん。

梶間 だから、それでも話の中でよっぽどのことや、弓場さんには申しわけないんですけど、よっぽどのことやなってとってしまったんですわ。

弓場 うん。

梶間 それがもうね。

弓場 じゃあごめん。ほんなら、あなたたちも最初から、後の介護会社との引き継ぎもなしに、あなたたちも認めたってことやん、そしたら。構へんよ、正直にやってほしいんよ。

梶間 はい。

弓場 あなたたちの私に対するね、本当に申しわけなかったと言うんやったら、そこ事実だけ教えて。

梶間 はい。

弓場 その時点で、あなたたちも認めたんやろう、そのときに。

梶間 考えさせてと言うたんですけども。

弓場 違う、違う。

梶間 そうですね、やっぱり認めてましたね。やっぱりどこかで。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。

弓場 だから、あなたたちが、本気にあなた言うみたいに、いやちょっと、極端なやり方やな。でも、そうですか。そこまでやめたいんですか。仕方ないですって、そういう形で言った形に、あなたもそのときはそういうふうに、みんなで雰囲気になったっていうことでしょう。そのときは南もそのとき言ってたでしょう。正直に言って。

梶間 考える、ちょっと検討するわって言うてましたんで。

弓場 ええ。

梶間 ほかの人と検討するっていうふうには言うてたんです。

弓場 何と検討するって。

梶間 ほかの職員にも聞いて。

弓場 ほかの職員とも。

梶間 はい。

弓場 ほかの職員ってどういう意味よ、あなた2人何よ。

梶間 私が聞いたのは、植田とか、あと事業所にかかわるほかの職員、ここには名前が出てこないんですけども、私どもは職員26人いますんで。

弓場 じゃあ、実際に何人で、みんなで打ち合わせしたんよ。

梶間 プラス2ですね。私、植田、課長、それで包括支援センターの職員が2名ですね。

弓場 私の解約について、1回はみんなで、少しは1回ぐらいは議論したことあんの。

梶間 そうです、議論しました。相当しましたね。

弓場 何人でよ。

梶間 だからその。

弓場 今言うた、何人よ。

梶間 課長。

植田 書いてあげますね。

弓場 書いて、具体的に。

梶間 課長、梶間と植田と包括支援センターの職員2名。

弓場 部長は入ってないの。

梶間 部長はこれに入っておりません。

弓場 入ってないの。

梶間 はい。

弓場 あんまり彼は知らんのか。あんまり、今回のことに。でも、あなたも最後に決算するんやろう。

梶間 そうです。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。

弓場 ほんなら、あのおっちゃんもこの間来たけども、一応知ってるやんか。

梶間 はい。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。

弓場 構へんよ。あなたが1カ月これだけとか、今でもそうやけど、毎日朝まで寝られへんので、それだけ助けて。

梶間 はい。

弓場 **それがあなたのね、最後のあなたの、自分の私たちにやった償いって、私は思っ**て

るんよ。それをあなたもすべきと思ってんのよ。何でかと言ったら、あなたたちは市民を、まして障害者に対して、あんなみらいのほうに完全にくみしたから。

梶間 おっしゃるとおりです。そうです。くみしました。確かに。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。そのとおりです、もう結構です。

弓場 でも、今は何度も言うけども、この人はまだ気づいてないけども、あなたは本当に今回、間違ったって認めてくれるんやね。

梶間 はい。でも、おっしゃる。

弓場 え？

梶間 はい、そのとおりです。

弓場 彼みたいに中途半端なうにやうにやじゃなくて、はっきり言って。

梶間 大変申しわけないです。最初にみらいのほうについてしまったというのが、全ての間違いのもとで。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。これは申しわけないです。

弓場 一方的に、田脇さんにも私にも歴史あんの。60年の。

梶間 はい。

弓場 田脇さんは67年間の。

梶間 ああ、67年なるんですか。

弓場 歴史あんの。あの人も今回、体壊した。お母さんも今、脳梗塞で、やっこの間ちょっと、急性は何かいけたんやけども、今はまた、もう全然、口も飲めない。

梶間 ええ。

弓場 でね、みんな大変なの。みんな。あんたらのやることでね、田脇さんも今、薬飲み始めてね。あの人が一番悔しいのはね、弓場さんを守れなかったこと。確かに私も頼りないけども、弓場さんに、お客さんに何もできんかったこと。こればかりいつも私、悔やんでるって。

何であのときみらいから言われて、そのまま一瞬、私も認めてしまった。そやけど、後で弓場さんに言われて、何とか形を戻そう思うたけども、阪南市の南が入ったために何もできなくなってしまった。だから、私、言うた。田脇さんみたいな人がよくて、私もこんな頭が頼りなかったら、もうあいつの言うとおりにされてもうた。

ただ、田脇さんのせいじゃないから、本当のケアマネージャーの仕事は確かに放棄したけども、でも後で気づいてまた行ってくれたから、後は阪南市の南が一番悪いって文句言った。

この会議のときに、1人ぐらい誰も出てけえへんの。弓場っちゅう男は、それだけみんなに嫌われてたの。よっぽど。

植田 いや、そんなことないです。嫌ってるじゃないです、嫌ってるんじゃないです。入るのを嫌がってるっていうだけでは、そういう破棄の理由にはならないんじゃないかっていう話を、この時点ではさせてもらってたんです。

弓場 え？

梶間 会議のところは、そらみんな嫌ってるっていう理由では無理でしょうということで話になってた。だから。

弓場 何て。

梶間 ヘルパーさんが嫌ってるとか、また弓場さん……。

植田 嫌がってるだけだという状態ではね。

梶間 カカミさんを逆に拒否してるとかいう理由では契約の解除にはならないでしょうと、即日の。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。そういう話になりました。

弓場 そうやろう。違う、違う。それは正直そうなんや。

植田 そうです。

梶間 そうです。

植田 月曜日の会議に……。

弓場 みんな後でまた、自分ら……ないね。

植田 ないです。

梶間 その段階でちょっとまた……。

植田 なので、月曜日に協議したんですけど、その時点で、みらいのこの申し出をそのまま受けるという気持ちではないんです。協議としては、その。

弓場 じゃあこの会議のあなたたちは、いつに打ち合わせしたって、みんなの。そんなの。

梶間 月曜日です。

植田 月曜日。

弓場 月曜日の。

植田 月曜にしたはずです。

弓場 月曜日、言うたら3日か。

植田 そうです。

梶間 3日です。

弓場 3日って、行く前やんか。

植田 行く前なんです。だから。

弓場 ちょっと待って。

梶間 4日にお伺い。4日に私ら、4日ですね。3日には、はい。

弓場 じゃあ何で3日のときに、この会議では、そんな理由だけではちょっとまだできないねって、あなた、みんななったんでしょう。

梶間 はい。

弓場 それは本当なの。

梶間 はい。

弓場 全員で何よ、合計何人。

植田 5人ですね。

弓場 え？

梶間 5人。

植田 5人ですね。

弓場 5人、あと誰よ。木村が入っとるんか。

植田 いやいや。

梶間 入ってません。木村は入ってません。

植田 3人と名前できてない、地域支援包括支援センターの職員2名ですね。

弓場 あんたらね、こんな地域包括支援センターが入ってるのに、あのみらいのやつ、あいつ、ここには包括支援とか書いてるけど、全然機能してないやないか、そんなんやったら。

植田 意見を求めてるだけという条件で。

弓場 だから本当言うたら、完全な中立とか独立してないんやろ。あんたらと一緒にやないか、身内やないか。

梶間 はい。

弓場 格好よく書いてるけども。

梶間 はい。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。

弓場 みんなには、こんなんあかんときは包括支援。私ら包括支援センターなんかわからへん。

植田 はい。

梶間 はい。

弓場 でも、田脇さんに聞いたら、弓場さん、泉南市の場合はちゃんと独立してるけども、阪南市は一緒ですよ言われたら余計頭に來たんや、私は。

そんなもんね、私もね、あなたも思えよ、自分の先輩が全国で頑張って生きてきたんよ、私も。その人間にね、こんな身内のこと言うて、あかんときは包括支援センターがありますから、それでも1つの道がありますとか偉そうにね、みらいは言うたけども。

梶間 はい。

弓場 こんなん完全にもうペテンと一緒にやないか、こんなやり方。まあいいや。それはまたや。事実はどうして。

これでやって、この時点で本当に協議したけど、まだ認めてなかったん。

植田 認めてないです。

弓場 ほんなら書いといてよ。その時点では正直だから。私はあなたを信用する、そしてら。

じゃあ何でいきなりかじをこっちに切ったんや、4日の日に。4日の日に何で、月曜日やろう。

梶間 はい。

弓場 次の日に、この4日の日にね。

梶間 はい。

植田 4日の日はお昼間、1時に寄せてもらったときに、お話ししたみたいに、私は認めてないので、このヘルパーさんと直接やりとりする方法についてで。弓場さんはね、ヘルパーさんと直接やりとりする方法について答えがもらえると思って、この日おら

れましたよね。

弓場 直接連絡、はい。

植田 その返事をもらえる会議やと思ってはったと思うんです、弓場さんは。私もその立場で来ました。

弓場 じゃあ、梶間さんにみらいが言うたことを、あなたたちが、本当にこれは信用していいの。

植田 私たちはみらいの味方をしては行きませんっていうお話を、この前にはしてるんです。だからまだ、弓場さんにとっては、もう聞いている時点で味方してるんやろうと思われたという話やと思います。

弓場 もうね、あのね、あなたもそうやんか。

梶間 はい。

弓場 この人が来たこと自体、もうみらいにすきを与えたこと。

梶間 はい。

弓場 こういう一気にこんなやり方を、来たこと自体がですね、あなたが言うたように独立して、阪南市がきっちりしたところの正々堂々と是々非々で動くところやから、そんなときはね、あなた知らない。「李下冠を正さず」って知ってますか、知らない。

梶間 はい。

弓場 自分ら漢詩とかあんなん習ってないんかな、高校のとき。

梶間 済みません、勉強できないもんで。習ったかもしれませんが。申しわけないです。覚えてないです。

弓場 この人も知らなかった。びっくりしたんや。

植田 知らなかったですね。申しわけないです。

弓場 ええ。

梶間 申しわけないです。済みません。

弓場 「李下冠を正さず」というのは、李下っていうのはスモモの下。スモモは中国では高級な果物や。そこの下ではね、特に地位の高い人は、ここで冠ってこんな帽子を何があってもさわらない。何でか知ってる？何でさわらないというのか。

梶間 わからないです。

弓場 もしさわったらね、このスモモの上で、李下冠はスモモの下で、この帽子をさわらないって言うてんの。じゃあ何でかって言ったら、もしこれさわったら、ここにスモ

モを取りに行って、ここにぱっと隠した。要するに盗人に見られてしまったんや。

そのときにね、こうなったときに、立派な人ほどこういうところでは頭がかゆくてもさわからない。堂々と立ち居振る舞いを変えない。わかりますか。

梶間 はい。

弓場 ということは、阪南市がこんな話を聞いて言ったこと自体、この人にも言うたんや、ひきょうやって言うたんや。ひきょうって。田脇さんとか僕に、あなたも知ってるやろう。思い出したか。私がこのときに、みらいが来たときにあなたも横で、ここであなともこの辺に座ってた。

梶間 そうです、2回目ですね。

弓場 そうやろう。

梶間 みらいさんも来たときですね。

弓場 僕がこんなん言うたやろう。あれ、私、頭悪いけども、はっきり知らなかったけども、今回の解約はそのときから4日の日から決まってたん違う。その話を言う前にね。違う、違う、違う。あなた、すぐね、すぐなんで。次にこう行くときに、こう回るんや。ちょっと待って、あんた。

植田 済みません。私が首振ったらややこしくなる。

弓場 あんたね。

植田 はい。

弓場 この人、悪いけどね、何ちゅうの、わかる。

植田 わからない。

弓場 この人ね、あんまりこうされるのはセクハラなるかも知らん。男で言うたらね、もう女の人見たらすぐに何かもうね、そんなになるっちゅうてね。要するに我慢できない、この人は。人が本当はここからここまで前に行こうと思うんじゃない。

植田 済みません。

弓場 ここの前で。何遍も言う。実はこうだけど、こうって、そういう結論出す前に。

植田 こうなるんですね。

弓場 この手前で言ってまうと終わってまうやん。

植田 はい。

弓場 わかる。ほいでね。

植田 直します。

弓場 今回のあなたたちのやったことはね、あなたも覚えてるはずや。こんなに田脇さんにも僕にも何の話もせずに、いきなり人の家に土足で入ってきた。覚えてないか。

梶間 はい。聞きました。

弓場 本来なら。

梶間 連絡か。

弓場 私とか田脇さんに、弓場さんとこ行かせてもらいますよ。こんな悪い頭でもね、すぐ直感でわかったの。覚えてるか。

梶間 はい。

弓場 だから僕はね、こんな頭悪くても、何か変な胸騒ぎじゃないけどね、ちょっとこの連中、何かやっぱり、こいつら最初からもう。それでなかったら、みらいに一方的に話を聞いて、この人はね、すぐに、いや、きょうはついてきました、そんなん言うても、あっちの誘いで一緒に来たこと自体がね。

植田 はい、わかりました。

弓場 全然中立じゃないの。あなた思えへん？違う、思えへん？あなたそういうようなこととわからない。あなたも例えば誰か別の人の家でね、ましてや敵、敵と来ると、私にとっては解約する連中は。

植田 そうですね。

弓場 そうやろ。ましてや案の定、あんたらもここで会ってるんやで。ここでそんな話を聞いているんやで。ましてこんなこと知ってたら、こんな障害者とケアマネージャーのところへのこのこ出てきて、一緒になって中立で来ましたって言うても、完全に足元を見られてるやないか、みらいから。

だから、あなたたちもはっきり言って最初から、僕は言うてんねん。この人たちはこんなやってくれたか知らんけど、この日に来た時点で、この人を派遣した時点で、もうこっちと出来レースなんねん。

植田 出来レースなってる。

弓場 出来レースなんよ、わかるか。

梶間 はい。

弓場 何度も言う。あなたがね、もうあなた、自分のプライベート上、怒るけど。例えばあなたにすごくすてきな人がいてね、それでまた別の人と、どっか真夜中に、夜、帰って来えへんかったと。一日一夜を明かしたと。その男の友達の人にね、いや、私、

何もしてないよ言うても、普通の人はその人とどっか一緒に行ったこと自体ですね、本当にそんな何もなくても、さっきの「李下冠を正さず」。あなたたちが市民を守るための自治体で中立と言うのであれば、堂々といや、植田さん、弓場さん。

植田 はい。

弓場 あなた、私の言いたいのがわかる。こんなこと知ってた以上、余計に行かれへん。人間って。わかれへん、思えへん。私、これ聞いてなかったら行くかわからん。本当に中立やったら言い切れる。でも、相手の下心を先に聞いている。そやろ。まして変に利用。こんな自治体の人は、あなた、お茶まで飲めへんのやろう。

梶間 はい。

弓場 何でかって言うたら、中立で正々堂々とやってるやん。でも、あなたのこんなん来たこと自体が、こんなんじゃなくてもっと裏切りよ。何でか、田脇さんが僕ら、これも最初から話を知ってたらね、こんな話を知ってたら、そんな……やないか。違う。

梶間 はい。

弓場 こんな話を知ってて、この日に中立で来ましたっていきなり人の家入ってきて、こんなこう聞いてたら、あんたらの私、真剣さがわからへん。思えへん。これほど人に対する裏切りないで。

梶間 はい。

弓場 余りにも愚弄やで。

植田 はい

弓場 え？まして障害者の人の実家のあるじやで、こんな体でも1つのあるじやで。そのあるじにここで、こんな話を聞きながら、あのみらいを連れてきて、同じようにこのこ一言言うたやないか、うちは、みらいさんもお客さんやけども、弓場さんとも、田脇さんともお客さんです。そんな一方やめようと思うてる人間に、耳まで聞いてしまっ、私らは行きたくても行けません。2人たちみんなで話し合ってください。わかるか、本当にわかるか。わかれへんかったら裁判でやるか。

植田 いえいえ

弓場 あなたも裁判でやるか。これはひきょうでないかひきょう、わかれへんか。

梶間 いや、わかります。確かに事業所に加担ということになりますから。

弓場 当たり前やないか。

植田 弓場さんの立場からしたら裏切られた気分に。

梶間 そうなりますね。

弓場 私がじゃなくて、普通の人間はそう。

植田 この経過は出ます。

弓場 こんな流れができてたんやったら、その時点でね、一般の普通のときも、あるいは阪南市ってこんなやったらいけないことやってるなと言うよ、こんな。何でかって言ったら、弓場と田脇に対する裏切りやんか。そやろ。逆に、ここでみんなにそんなやましい考えはあきません。もっと正々堂々と。

じゃあこれ、何のために来たんよ。

植田 本当に私はこのことですがね、あほと言われると思うんですけど。

弓場 これは中立違うやんか。

植田 あの。

弓場 ましてや聞いてるんやで、1回、もう私たちはやめようと思うてます。弓場さんは、みんな行きたくなく。

梶間 まあ嫌がってます。

弓場 嫌がってます。

植田 嫌がってるということは聞いてますけど、それを認めるというのは。

梶間 おかしい。

植田 おかしいというスタンスでは来てるので、本当に私自身はこのことの問題で、ヘルパーさんの問題で寄せてもらったつもりだったんですけど、今思えば。

弓場 違うって、だから言ったやんか。

植田 弓場さんのおっしゃるように、中立でなかったんやと。

弓場 僕言うたやろう。私はね、南にもね、ノンアルコールビール、自分だけ抜け駆けしたんやと言いたい、わかる。南さんに何ぼ思ってくれても、ほかの人にも飲みたい人がいてるんやったら、そのときは私だけじゃなくて堂々と飲ましてあげてください。それだけや、私。

それでだめやったら、本当にだめやったら、それ従うしかないやんか。世の中ってそう違う。ああいう裏手を使って、1個何かを書いてもらうとか、あんたとこだけ例外にしてあげるとか、私はそういう生き方嫌いなんや、昔から。あなたもスポーツしたことあるやろう。

植田 はい。

梶間 そしたらこれでね、中立で阪南市の市民を守る自治体が、あちらから一緒にこのこついていって。じゃなくて、いやいや、私たちもみらいさんと30日こんなことを聞いてといて、それもう行きたくないです。こんなん私、行きたくないです。見たくないです。私の心もちよっと後ろめたさあります。知らなかったら行けるけども、聞いた以上はもう弓場さん、田脇さんには裏切りや、わかるか。

こういうのが、あなたには真剣性がなかったら、あんたらは人間違う、動物や、それは。ほとんどの人間はね、アフリカの人でも、アメリカの人でも、中国の人でも、人間が一番共通してんのはね、ひきょうなことで。要するに、アメリカではアンフェア。フェアとアンフェア。アンフェアを一番みんな嫌がるんや。わかる。

梶間 はい。

弓場 わかる。

梶間 はい。

弓場 だから、あんたのやったことはアンフェアかもしれん。どんなあなたに理由があろうとも相手は知ってる、相手は知らない、同じとこでけんかさせる。わかってるか、ルールはそなん違う。お互い同じ条件でするのがルール、みんな。

あんた、そうやろう。あんたスポーツマンやろう、お互いピーと吹いたらみんな同じように頑張るんや。でも、片っ方は前の日から言っというて、話するの聞いというてください。そんなのはっきり言うたら私見たくない。そんなひきょうなこと見たくない。だからちょっと。

僕たちはね、顔で、おかげさんで、こんだけのメンバーとかお客さんを任せてくれたんは、そういう変な下心とか、動機が不純とか、心がよくない人には私どもできない、それ。私たちのメンバーでも、私が次のチーフを見詰める。自分がさすときには、もう何がっちゅうたらね、化粧は……もう本当にフェアな人、どんな人があっても、絶対に私たち、あんた長で、あんただけちゃんとしてあげるわなとか、点数これだけしてあげるわ。違うんよ。

まして、みんなが一旦メンバーを預かったら僕はみんな平等にする。本当の意味での平等。そら人間、好き嫌いある。好きがあっても、自分とはそれだけはやってはいけないことになってる。ましてや障害者のお客さんの家に行くときに、こんな下心で、もうやめたいと言うてる人間に、いや、これでも構へん、最初から弓場さんに言うたけども1個も理解してくれへん。だから1回、私らでは力、これ以上できない。やめ

させてくれ、何とか考えてくれませんか。

そしたら、じゃあ1回、弓場さんと田脇さんと話して、みんなで話し合しましょう
やったら、これでいい。この女にはちゃんと少し情報を持って出て、もうやめたい、
こんなこと弓場さん、みんな嫌がってるんですよ。そんな情報を持って、ましてや
相手からの依頼を聞いて、普通の人間は私、理解できない。

わからない？私の一番言いたいことわかる、人間として。戦争でも、昔の戦争は果
たし合いするときは、いざってみんなこうするんや。後ろから、そうやろう。

梶間 そういう情報をなぜ言うてくれなかったんかっていうことですね、まず。

弓場 え？

梶間 そういうことを、なぜ先に言うてくれへんかったってということと、私たちがそれで
訪問するんだっていうことを先に言うてくれへんかったかっていうことですよ。今
のお怒りするのは。

弓場 違う。あなたたちのね、ここの胸を打ったときに、あなたたちそんなこと平気かと
僕は言いたいわけ。

梶間 ではないです。

弓場 こんなやり方、ちょっとひきょうじゃないですかって、それだけ。いや、思えへ
ん？

植田 最終的にね、この日に即日、認めてしまったので、もうどうもならないですけど。

弓場 違うで。

植田 この日の時点では、どうにかこのヘルパーさんの問題を片づけて、みらいさんに継
続。

弓場 何て、ヘルパーさんの問題。

植田 ヘルパーさんに直接やりとりしたいっていうお話をね。

弓場 ちょっと待ってよ。あなたね、あなた、今みたいに、こんなにきれいに言ってるけ
ども、あんたはこれ行って、あなたにこの後ぐらいで、解約3日、三文芝居じゃなく
てね、その次の日ぐらいか、木曜か金曜日にあなたに電話したんや。

植田 はい、木曜日。

弓場 そうや。あなたはね、その日はいなくて、次の日、聞いてびっくりしましたっ
ちゅうたんや。

植田 そうです。……詳しく事情を聞きました。

弓場 そのときに言うたけども、私が、でも、あのときの話とそんなん違ったよねって言ったら。

植田 この日の話ですよ、あのときの話。

弓場 4日の日は。そんな話違うたよねって言ったら、あなたはでもね、ぼろぼろ言うてんのや。いや、でも一応出てましたねとか言うてんのや、あんたは。

植田 はいはい、ここに書かせてもらってると思うんですけど。

弓場 違う、違う。だから別に、そんな問題が起きても仕方ないみたいな、伏線みたいなことを平気でしゃべってんのや、あんたは。

植田 うん。

弓場 そのとき、本来ならあんたは一言でも、ええ、そうですね、本当に今でも信じられないです。私は、弓場さん、あんた、何しに來たの言われて、いや、中立で言った以上、私も今まだ認めてません。今からでも私、ちょっと行ってきます。それが仕事じゃ、ばかたれ。

植田 済みません。その判断、ここでできなかったのは申しわけなかったと思います。

弓場 それと何遍も言います。ひきょうでしょう。あなただけちょっと答案を教えといてあげるのと一緒なの。何でか言ったら、この会議は、相手にとっての意図はやめるための意図や。わかってるか。

植田 はい。

梶間 はい。

弓場 ただね、裁判の問題であれ、携帯でなくても、あんたも見たやろう。私が最後、感情失禁の病気で、どうしてあんた聞いてくれんの。こんなしんどくて、これだけ頑張ってるのに、これだけ時間あっても、何であんたこんなひどいこと認めてくれないと、最後泣いてもうたやろう。

植田 あの4日の日ですよ。

梶間 はい。

弓場 泣いたやろう。

植田 はい。

弓場 私にうそあるか。本当に一生懸命、電話ぐらいいいんじゃないですか。

植田 お願いされてたんで。

弓場 おまえもそれ見といて、相手がそんな意図があってね、最初からね、あわよくばこ

こで一気に言ってしまうおうと思ってるわけよ。書いてるやんか、このときの話は出なかったけど。ほかに少し出たが、他の話に変わって。

植田 確かにみらいさんは、あわよくば。

弓場 ちょっと待ってよ。変わったために、今回のここで目的は達せなかったけども、進展できなくて目的は達成できなかったけども、本当はこの時点のとおりですね、もしいつてたらですね、横で何とか理由つけて、またやってきたかわかれへん。でも、途中で終わったから、こんなん進展しなかっただけなのよ。わかってる？進展しなかっただけなのよ。

でも、みらいはこんなことで携帯がなんかどうでもええんや、あっちは。早くやめたいだけや。どっかに何かのきっかけで、言おうとしてるだけなんや。そこをずっといつも探してるんや。カサさんの話を出したり、裁判の話を出したり、そういう形で相手を恣意的にいろいろ探してるわけよ。

ただ、私と、田脇さんはわからへんから、何回も時間をかけても何でわかってくれん。だからこんなに時間かかっているんよ。最初からこんな話を出てるんやったら、いや、弓場さん、実はその話よりも、先にもう思い切って言わせてもらいます。きょうは、弓場さんと膝詰め談判で、みんな女の人もこんなんやから、ちょっと聞いてほしいんです。それで終わりやないか。違うの。

どうしてこんなひきょうな、こそくな手を使って、障害者とかお人よしのケアマネージャーを使ってね、そういう腹の中があんたらわからんの、私。

何度も言う。ビール1個でも、私は正々堂々と飲みたいという人間や。わかるか、あんたわかるか。

梶間 はい。

弓場 そんなことを、いい男2人がね、歴史のある人間が、あんな小娘の、女の仕掛けにまんまとね、わざわざ何時間もかけて。ただ、電話ぐらいは認めてくれるんじゃないかと。一生懸命、こんなして頑張って、声をからして。あんた知ってるか。これだけしゃべるんでも、これだけ座ってるだけでも、この半分死んでるから。どれだけ痛くて、しびれが強くて。わかるか。

あんたらは簡単にね、南は悪やから、ああ、弓場さん、遅くまでやりましたね。うまくいきましたね。でも、僕ね、あいつの二枚舌、ここまで普通の人間、ようせんで、僕は。あいつと生き方の違いはね、僕は何度も言う。人間ってね、アメリカ人であれ、

アフリカの人であれ、中国の人でも、ベトナムの人でも、みんなアンフェアが一番嫌いな。みんな。

梶間 はい。

植田 そうですね。

弓場 日本はあほやから、玉虫色で上手に相手に対して、何や、これも言葉で何ちゅうんや、そういうの。

植田 穏便に済ませるといふか、傷つけないように。

弓場 違うわ、あほ。傷つけないそんなきれいな言葉、そら、その場合はいい。そら言うけど、そうじゃなくて、上手に何を、あの何よ。

梶間 丸め込むとか、何やろうな。

弓場 何よ。そうそう、あれ。

梶間 携帯鳴ってますね。

弓場 みんな、弓場に危険な目に遭うてないか言うとかわかれへんな。

梶間 それはない、そんな。

弓場 また南はすぐ言うやろう、そんな。

植田 そんなことはないですけど。

梶間 ああ、友達の携帯ですね。晩なんで、話していいかなという感じでした。ごめんなさい、切ります。……何か入ってます。

弓場 私はね、田脇さんも、それが今回一番悔しいって。

植田 確かに、済みません。

弓場 田脇さんも、これも全部あげた。

植田 私も、……この日、本当に弓場さんがお願いして、その結果、みらいさんが来てくれるっていう話でおさまったって、私もこの時点では思ってたので。

弓場 でも、そんなんじゃない。

植田 でも、結果としてはどうしようもないです、申しわけないです。

弓場 そういう心がけ、心がけはあなたスポーツマンという割には違う。特に、岸高でそんなん知らん。もうちょっとまともな人おるよ。こんなことで障害者の家に行って、何度も言う、これ逆やったらまだ構へんわ。

逆にね、弓場を守るためにあっちへ入りに行って、どんな話してるか、きょうは聞きに来てもらいました。こいつらのちょっと腹の中、腹黒、わかった、とか何よ。

梶間 腹黒。

弓場 違う、違う。腹とあれとは違うってあるやん、そういうこと。腹と。腹と言うことが違うってあるやんか。腹ん中はこうや、でも表面的には。あれ何ちゅうんや。裏と表や。裏と表で。

植田 裏表があるっていうことですか。

弓場 使い分ける。

植田 はい。

弓場 わかるか。

植田 はい。

梶間 あの男と一緒にや。裏表を使うことが、昔はそんな時代も一時期あった。そういう会社の人間は少し重宝されたこともあった。でも、今の時代は通じないよ。まして、こんな世界でグローバルに商売しよう思うたら、そんな腹の中の言うことと、裏と表が違うのだから、みんな。みんな、泣く子は起こすんじゃなくて、正しく起こせなとんよ。わかってるやろう。

でも、おまえらのやったことはね、ほんまに僕ね、腹黒いなと思う。僕らみたいな人間はね、田脇さんでも、僕でも何でも正直。だから、あんたも、こんなところでもけんかしてたやろう。田脇さん、あんた要らんこと言うから、あんなヘルパーのおかしい電話の件でよりややこしいなったって言うて、そこまで言って私は正直にやるの。みんなの前で恥ずかしくてもやるの。

それは何でかと言ったら、何が正しいかやるだけや。あいつら2人笑ってたんや。あいつらの腹の中ではね、弓場さん、加埜さんと一緒になってくれないと、うちでもできないとか言うたりとか。はっきり言えばいいんや、そうやったら。はっきり言って、ほんまひきょうなやつやねん。それに対して、同じようにあんたもこの中に入ってたんや。わかつとるか。

梶間 はい。

弓場 あげくの果てに、こんなひきょうなの書いてくるんや。

梶間 弁解の余地はありません。

弓場 自分のやったことの意味がわかってきたか、本当に。

梶間 はい。弁解の余地はありません。

弓場 よう、そしてこんなことで、きやつらの腹の底を知ってながら、一緒に参加して、

そして自分らでようとめなくて、しかも完全に認めて、ましてや、そのおかしい、おかしいって私と田脇さんが南の前で、いや、何で返すんですか、何で今から反省するんですかって、あほみたいな。へ理屈で、いや、もうみんながやめるって言うてますから仕方ないですね。それよりもっといいところを見つけましょう。こんなひきょうな男は初めてじゃ、わしは。こんなん、普通の民間会社でもここまで汚いやり方せえへん。

わかってるか。本当に植田さんわかるか、おまえ。

植田 はい。

弓場 梶間さん、わしは梶間じゃ、……。

梶間 はい。

弓場 おまえも自分で思うやろう、これ。こんな。

まあいいや。もう1個、次や。この30日の話は大体それぐらい、あとない？一番大事なここが、これが起点や。わかってんねん。

梶間 そうです。

弓場 あとはもう枝葉や。ここは、そこで阪南市も一旦は少し、踏みとどまって、少しは会議はしてるんやな。

梶間 はい。

弓場 そのときの議事録は残ってるか。議事録もないんか、あんたの会社は。僕らの会社は全部議事録とるけども。

植田 ……。

梶間 ……。

弓場 出してよ、そうじゃないと信用できひん。あったかどうか。

例えば構へんわ、名前も出てもええわ。梶間オーケー、でもあなたの言い方やったら植田は反対、もう1回踏みとどまって、もう1回考えましょう。

梶間も正直教えてよ。この日、30日にあなたはとりあえず、以下承るけども、また、すぐにはやめてくださいと、それは言うた。それとも、まあそうですか、仕方ない。どっちよ、ほんま正直言うて。

梶間 どっちも言わずに相談しますだけですわ、本当に。ただ、まあうなずきながら話を聞いてましたんで。

弓場 結果的にはもう納得したんや。

梶間 そう。納得してるっていうふうに言われても仕方ないです。

弓場 相手にとってな。

梶間 そうです。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。

弓場 だから来たんや。あのね、ああ、ごめん。

植田 いけますか。

弓場 私にしたらね、みんな来たときの顔すぐわかるの。梶間さんに言うたやろう。

梶間 はい。

弓場 みらいと2回目の会議に行ったときは、この人はもう来てもらいたくない。かわりの人を出してくれ言うたら、あなたが来たんや。

梶間 はい。

弓場 そのときにも言うたやろう。何か、どうしてこんな私とか、アポイントもとらずに、やる。そのときに、ほんならあいつら、こんなん言うた。いや、そのときの理由じゃありませんとか、枘がは偉そうにしゃべったけども、覚えてる。

梶間 ああ、はい。

弓場 ここへ2人座って、いや、あのときに決めてたん違うって言うたら、いや、そんなことはありません。今回は本当に女の子たちが行きたくない言ったからって。そして、あなたはほんまに正直に言ってください。みんなが行きたくないからって、ここで決まってるんよ。ここはセレモニー、これもセレモニーや。彼らにとっては。わかるやろう。

梶間 はい。

弓場 そうや、セレモニーや。ここの1つのステップだけ。ホップ・ステップ・ジャンプだけ。ホップ・ステップ、三段跳び来たんや。5日の日に、いきなり夕方に電話かかってきたんや。これもね、教えて。このときに、ここには何も書いてない。誰が受けたんや、5日の日は。この人はいてないと言ってたんや。

梶間 受けたんは、私も直接に受けてないですね。受けたのはほかの職員ですね。

弓場 え？

梶間 ほかの職員ですね。

弓場 ほかの何て。

梶間 ほかの。

弓場 職員。

梶間 はい、私も受けてないです。課長も受けてない。

弓場 いや、受けた言うてるよ。

梶間 課長、ああ、受けたんか。課長が受けたんです、そしたら。

弓場 だまさんといてよ、これも。

梶間 ほんまに。5日、私も植田も直には受けてません。

弓場 5日は受けてない。

梶間 はい。私と植田は受けてなくて、ただ伝言はあったですね、確かに。ほかの庶務課の者が聞いてて、課長はもう知ってました。それを。はい。全く。

弓場 あなたに聞いたんか、誰かに聞いた。

植田 梶間代理と課長とで聞いてたって。

弓場 私に聞いたんは、ちょっとここに書いといてよ。ここに。誰が受けたんよ、みらいから。

梶間 私はその話は直に受けてなくて、私は5日のうちには聞いてます。

植田 5日のうちには聞いてますよね。

梶間 聞いてました。

弓場 5日いてたんやろ。

梶間 私は席外してるというか、ほかの者が電話を聞いて、私はその話を聞きました。5日のうちにはい。

弓場 5日の日に聞いたやろ。

梶間 聞いてます。

弓場 みらいから何時ごろ電話があったんよ。教えて、それを。

梶間 夕方、5時ごろですね、電話あったのは。5時ごろですね。

弓場 5時？

梶間 5時ごろ、はい。5時ごろ、はい。

弓場 もっと前って聞いとったで、私。南は。

梶間 私は聞いたのは5時ごろか。

植田 5時ごろ……。

梶間 私が聞いたのが5時ごろ。

弓場 何でかと言うたらね、あなたも覚えてるやろう。あれはあれか、最後にまた彼ら来

てるんや、2人。そのときに、今回教えてって言ったときに、それを信用してしまっ
たんやけどもね。

梶間 私が聞いたのが5時ごろかな。

弓場 ねえ。

梶間 はい。

弓場 そのときにね、西ノ坊はこんなん言うた。何時ごろでしたかと言ったら、西ノ坊に
言うたんは、もう南が信用できなくて、正直に教えてって言うたんや。ほんなら、い
や、阪南市は5時に終わるので、それまでに電話してますって。

梶間 そうですね。なら、私が聞いたのが5時ですね。

植田 5時15分ですけど。

梶間 私たちは5時15分終わるんです。5時ごろやな、……。

弓場 いや、もっと前なんや。何でかって言ったら、あなた野口さん知ってるやろう。

植田 はい。

弓場 私も全部、私の出すから、あなたもちやんと、これも言葉が出ないな。

植田 そごがないように。

弓場 符合する。

あのね、私、ノンアルコールの件で泉南市の誰。

植田 野口さん。

弓場 野口さん。今回の件もね、あなた、野口さんと何回ぐらい電話した。この私の件で
は。

植田 アルコールのときにお話を聞いたことはあります。

弓場 いやいや、今回の件で。私の問題、1回してるはず。

植田 私ですか。

弓場 うん。

植田 野口さんに電話したっけな。

弓場 梶間さんは1回した。

梶間 してますね。

弓場 1回してる。

梶間 泉南市にも問い合わせてるという話を聞いて、1回してますね。確かにね。

弓場 あなたはしてないの。

植田 してないと思うんですけど。

弓場 うそやろ。

植田 私ですか。

弓場 うん。

植田 野口さんに。

弓場 うん。

植田 電話ですか、今回の件で。

弓場 私の件。

梶間 してます。私はしてます、確かに。

弓場 そのときはどんな話してた、書いといて。

植田 はい。

梶間 実はですね、泉南市にもみらいさん、泉南市にもちょっと御相談に行ってみて。

弓場 泉南市にもみらいから行ってたの。

梶間 うん。即日、契約やめたいってということで御相談に行ってみて、それで同じような内容を話したらいいです。

弓場 そのときの理由は何て書いてんの。

梶間 同じ。だから、行ったのはいつなんかちょっと聞けてないですけど。

弓場 私が聞いてんのはね。

梶間 5日。連絡とったのは、5日の朝には連絡とりましたね。泉南の。5日の朝には電話したのは覚えてます。5日の朝かな。いや。

弓場 5日って解約する日は夕方やろう。

梶間 朝です。

弓場 もう朝からあった。

梶間 朝です、朝です。

弓場 じゃあ5日の朝から連絡あったんや。

梶間 いや、連絡はあの。

弓場 いや、私の解約やで。今言うたん、夕方って言うたやん。

梶間 夕方やけど、違う、泉南市には。

弓場 5日の朝からやってたん、もう。

梶間 泉南市にも相談してということ言うてたんで。

弓場 ごめん。ということは、阪南市よりも泉南市のほうが早かったん。

梶間 だから並行して相談に行ってた。

弓場 いや、そこはっきりしてよ。だから、5日の日に、きょう私に言ってくれたんは、
夕方。

植田 5日の日の夕方、みらいから電話があって、それで夕方に梶間代理と南課長がわかって、対応したというふうに。

梶間 そうです。

私は直に受けてないけど、課長に私も聞いてました。それで朝、5日やったかな。

弓場 梶間さんの今、朝って言ったのはいつの朝。

梶間 もう1回言います。30日の段階で、既に泉南市に相談に行っていました。

弓場 ああ、30日に。

梶間 段階で、泉南市にみらいさんが行きましたということ。

弓場 30日に。

梶間 はい。その段階で泉南市に相談に行っていました。

植田 うちより先に、みらいが泉南市に相談に行ってるんですか。

弓場 そうやろう。

梶間 はい。行ってます、行ってます。

弓場 あのね、野口さんとみらいとは割と仲いいじゃないけど、割とあなたたちよりも。

植田 自分とこの……なんで。

梶間 そうなんですよ。実はそうなんです。

それで先に行って、もう阪南に言うたらってアドバイスを持って来ましてっていうのが挨拶だったんですよ。この件について、最初の挨拶が。

弓場 ああ、そこへ、この話は最初から、阪南市よりも先に泉南市にも。じゃあ、あなたが来たのは午後2時ぐらiyor、あなたの会いに来たの。

梶間 そうです。だからその前に、いつ相談に行ったかはちょっと聞いてないんですけど、泉南市に相談で、阪南市にちゃんと行って。

弓場 で、来たんやろ。

梶間 そうなんです。

弓場 ほんならこの前にはそしたらあれか、括弧してね、泉南市には言うてたのは午前かわからへんな、そしたら。2時ごろ来たんやろう。

植田 これより前に泉南市に相談済みとか。

弓場 済みと書いといて。